



あるさとの昔話

神戸の 雨ごいおまんだら



かつての祖師堂



モダンに建て替えられた祖師堂

県道勢子辻吉原線沿い、神戸2丁目に「おまんだらさん」と呼ばれ、地域の人々に親しまれているお堂があります。このお堂は、日蓮宗の開祖日蓮上人を祭るお堂で毎年祭典が行われ、賑わっています。

まんだら 曼陀羅をかけてお題目

鎌倉時代の話です。ある日、日蓮上人が神戸の部落を通りかかったときのことです。このあたりは日照りがひどく、村人は大そう困っていました。みんなでいつしうけんめい神様や仏様に祈りましたが、雨は降りそうもありません。この様子を見て日蓮上人は「さあ、みなの衆、これをかけてお祈りなされ。」と法華経の曼陀羅を書いて差しました。

村たちは、これを楠へ掲げお題目を唱えたところ、一天にわざにかけ曇り大粒の雨が降りだし、畠の作物がよみがえりました。この日が旧暦6月12日だったそうで毎年祭典が

行われていましたが今年から7月の第3土曜日に行われます。

法蔵寺へお迎えに

地元に住む赤渕秀心さん(59歳)は祭の様子を次のように語ってくれました。三ツ倉の法蔵寺に安置されている「お曼陀羅さん」を当番があ



赤渕さん

迎えにいきます。時間がくるとお堂に入り、みんなに御開帳されます。

御開帳の時間も昔は深夜の12時でしたが今では9時に御開帳され、終わるとすぐに法蔵寺まで帰ります。

田中新田は、明治22年まで東海道に沿って独立した農業と漁業の村でした。延宝6年(1678年)武藏国鳴子の田中権左衛門という武士が、この地に移住して新田を開発したということです。「田中」という村名はその人の名字をとったものでしょう。文化13年の年貢取立帳によりますと、家数は11軒、人数は50人位だったようです。

地名の由来

田中新田



古墳のはなし⑤

古墳と祖先の生活



広見公園に復元された横沢古墳

「周濠」ってな～に

古墳の周囲に巡らされた溝を「周濠」といいます。

周濠には、応神・仁徳天皇陵のように水を張ったものと、市内「伊勢塚古墳」、「横沢古墳」のように空掘りのものがあります。これは死後の世界と現在のを区別するほか、「墓域」を示すために掘られたといわれています。市内の古墳には、水掘りのある古墳はありません。

水掘りのある古墳は近畿地方などに多く見られますが、全国の古墳からみれば極く少数です。

近畿地方は、この時代の中心地域であったため、水掘りのある巨大古墳を造ることができる力を持った人々が多く住んでいたようです。富士市は、近畿地方などからみれば、地方の小国でしかなかったわけです。このため水掘りを持つ巨大古墳を造ることができるように支配者がいなかったということです。

こちら編集室

これからうつとうしい梅雨になります。食中毒がおこりやすくなるので食生活には特に注意しましょう。

1に健康、2も健康です。